

香川県教育委員会 4月定例会会議録

1. 開催日時 平成31年4月24日(水)
開 会 午前10時00分
閉 会 午前10時50分

2. 開催場所 教育委員室

3. 教育委員会出席者の氏名

教 育 長	工 代 祐 司
委 員	藤 村 育 雄
委 員	平 野 美 紀
委 員	小 坂 真 智 子
委 員	槇 田 實
委 員	藤 澤 茜

4. 教育長及び委員以外の出席者

理事	松 原 文 士
教育次長兼政策調整監	井 元 多 恵
総務課長	白 井 道 代
義務教育課長	小 柳 和 代
高校教育課長	金 子 達 雄
保健体育課長	宮 滝 寛 己
生涯学習・文化財課長	原 田 智
総務課長補佐	福 家 啓 充
高校教育課長補佐	小 山 圭 二
総務課副主幹	土 居 和 文
高校教育課主任指導主事	佐 伯 卓 哉
高校教育課主任指導主事	亀 田 龍 輔
特別支援教育課主任指導主事	三 宅 貴 将
高校教育課指導主事	川 東 芳 文

傍聴人 なし

5. 会議録の承認

3月19日に開催した臨時会の会議録署名委員の榎野委員から、同臨時会の会議録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

3月24日に開催した定例会の会議録署名委員の小坂委員から、同定例会の会議録について適正に記載されている旨報告。

各委員に諮り、これを承認した。

6. 非公開案件の決定

教育長から、本日の議題のうち、議案第1号は、教育委員会において会議を公開しないことと定めているもののうち、「個人に関する情報であって、公にすることにより、なお、個人の権利利益を害するおそれがあること」及び「県の機関が行う事務に関する情報であって、公にすることにより人事管理に係る事務に関し、公正かつ円滑な人事の確保に支障を及ぼすおそれがあるもの」に該当するため、非公開としたい旨を発議。

各委員に諮り、非公開とすることに決した。

7. 議案

○議案第1号 教職員の懲戒処分について（非公開案件）

各委員に諮り、原案のとおり可決した。

8. その他事項

○その他事項1 平成31年3月香川県公立高等学校卒業者の就職内定状況について

高校教育課長から、平成31年3月の香川県公立高等学校及び特別支援学校高等部卒業者の就職内定状況について説明。

【質疑・意見交換】

<藤村委員>特別支援学校は95.6パーセントということであるが、これは就職希望者に対する比率という理解で良いか。

<高校教育課長>その通りである。就労継続支援A型事業所の生徒も含めた数字である。

<藤村委員>A型事業所を除けば、どのくらいになるのか。

<高校教育課長>A型事業所を除くと93.3パーセントになる。

<藤村委員>人数は、どのくらいになるのか。

<特別支援教育課職員>就職希望者45名に対して、企業に就職した者が42名、A型事業所が1名で、合計43名である。

＜教育長＞特別支援学校から42名企業に就職したとのことだが、学校別にはどこの学校が多いのか。

＜特別支援教育課職員＞特別支援学校は県内に8校あり、それぞれ生徒数が違っている。今回、企業への就職が一番多かったのは西部養護学校で13名、次に香川中部養護学校が10名となっている。

＜教育長＞企業への就職者が多い理由について、学校側の努力や取組みとして挙げられるものは何かあるか。

＜特別支援教育課職員＞障害者の法定雇用率が2パーセントから2.2パーセントに引き上げられたため、企業側から就職希望者に関する情報の問い合わせが来ている状況である。また、ジョブ・サポート・ティーチャーによる就職先の開拓を進めており、生徒本人の特性に合った企業とマッチングして選べるようにしている。

＜藤村委員＞西部養護学校の生徒が企業に多く就職しているのはなぜか。また、就職先の企業はどのようなところか。

＜特別支援教育課職員＞特別支援学校の就職率については、その年度の学年によって障害の程度が比較的重度の生徒が多い学年とそうでない学年があり、その年ごとに数値が大きく変わってくる。今回の西部養護学校は障害の程度が軽度の生徒が多かったことから、企業への就職者が多かったと考えている。なお、就職先の企業は主に製造業である。

＜藤村委員＞どのような製造業か。

＜特別支援教育課職員＞食品加工の製造業で、流れ作業のラインの中の一人として入り、業務を行うものである。

＜藤澤委員＞就職率が上がっている一方で、就職して3年以内の離職率が課題になっているが、香川県内の離職率の状況と、離職後のケアについてはどのようなになっているのか。

＜高校教育課職員＞就職して3年以内の離職率の状況については香川労働局が発表しており、全国平均が39.3パーセントとなっているのに対して、香川県は37.2パーセントで全国平均より若干低くなっている。なお、その前年の数値も全国平均より若干低い状況である。

＜教育長＞この数値は、いつ発表されたものか。

＜高校教育課職員＞これは平成27年3月卒業者の状況について、昨年12月に発表されたものである。

＜高校教育課長＞職場定着のためのサポートの取組みとしては、新規に就職した子どもの職場をジョブ・サポート・ティーチャーが巡回し、職場での様子を確認する等のケアを行っており、そういった取組みも多少効果が出ているのではないかと考えている。

○その他事項 2 平成31年度香川県公立高等学校入学者選抜学力検査の概評について

高校教育課長から、平成31年度公立高等学校入学者選抜学力検査の採点結果及びその概況について説明。

【質疑・意見交換】

＜榎田委員＞国語だけ満点が出ないというのは、出題内容に不備があるのではないかと。

＜高校教育課長＞国語については、小論文や作文の問題があることと、他の教科に比べて記述する問題が多いことから、なかなか満点は出にくい教科であると考えており、実際にこれまでも満点が出ていない状況にある。特に作文については、採点する2名の教員がともに満点とした場合のみ満点としているので、なかなか難しいのではないかと思う。

＜藤村委員＞受検生へのメッセージの中で「問題の意味を正しく読み取り」というアドバイスをしているが、これは「正しく読んでいない」と感じているのか。最近、子どもの読解力が非常に低下していることを危惧しているという意見を聞くが、実際にそういう傾向が見られるということか。

＜高校教育課職員＞例えば数学の問題であれば、日常の事象を文章に起こしており、その内容をしっかり読み取り、問題の状況を把握する力がもう少しあればと感じるところがある。今回の学力検査の問題においても、長い文章を用意して「製品の検査」を数学的に解析させるような問題を出題しているが、このような問題については、読み取る力が必要になってくると考えている。

＜平野委員＞大学生に関して言えば、とにかく長い文章を読むことができなくなっていて、最初に読んだ部分だけで自分で決めつけてしまい、後の方はほとんど読んでいないというように感じているがどうか。

＜高校教育課職員＞確かに、中には最初の方で判断して文章を十分に読み切れていない、本当に文章が言いたいところがどこかを正確に把握できていない生徒もいると感じている。

＜小坂委員＞今年度初めてインフルエンザになった2名の生徒に対して追検査を実施したが、特に問題はなかったのか。

＜高校教育課長＞追検査の実施自体には、特に問題もなくスムーズに実施できたと考えている。

＜教育長＞先程の意見にもあったが、子どもの読む力が低下している状況にある一方で、大学入試改革等で問題文から様々なことを読み取って回答しなければならない方向に進んでいる。大学のプレ入試等でも、非常に長い文章の問題が増えており、読む力が無ければ何も回答できないような状況になってきているが、

こういう状況に対して、義務教育課としてはどのような対策に取り組んでいるのか。

<義務教育課長>全国学力・学習状況調査を見ても、近年、学力の捉え方というものが、以前のように知識があれば良いというのではなく、自分の持つ知識を活用する力が問われるようになっているので、国語だけでなく、数学や理科においても、与えられた長い文章の中から自分が必要とする情報を抜き出し、それらに関連させることで答えを導き出すという本当の読解力が求められている。文章の読解力だけでなく、資料等から読み取る力も含め、そういう意味でのリテラシーが求められていることを踏まえて、授業においてもそれらにつながる活動を取り入れ、読解力や表現力に力点を置いた授業に変わってきている。